

日本語教育基礎・日本語教育基礎演習

宮永 愛子（関西学院大学日本語教育センター）

1. 授業の目的

「日本語教育基礎」と「日本語教育基礎演習」は、関西学院大学が2012年度に文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」に採択されたことにより、今後増え続ける海外留学を目指す学生が、現地における日本語教育の補助活動への参加に必要な知識や実践力を身に付けられるようにするという目的で、2013年度から開講された授業である。日本語教育に関する基礎的な知識を得ることができる「日本語教育基礎」と、その概説を踏まえた上で日本語教育をより実践的に体験できる「日本語教育基礎演習」を受講することで、外国語として見た日本語とはどのようなものか、日本語を教えるとはどういうことかについて学生が考えられるような機会を提供することを目指している。

2. 2013年度の授業の概要

2.1 日本語教育基礎

本科目は、日本語教育に関する概説を行う講義形式と、グループごとにディスカッションや作業を行う演習形式とを並行して進めた。受講者は、様々な学部、学年の学生で、日本人学生だけでなく、留学生もいることで、日本人学生にとっては、日本語を客観的に見る視点に気づき、よい刺激になったのではないと思われる。全14回の授業の流れは、以下の通りである。

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. オリエンテーション、グループ決め | 8. 音声の指導② |
| 日本語教育概説 | 9. 聞くことの指導 |
| 2. コースデザイン | 10. 話すことの指導 |
| 3. 教える内容を考える | 11. 読むことの指導 |
| 4. 外国語教授法 | 12. 書くことの指導 |
| 5. 教科書分析 | 13. 実際に教えてみよう |
| 6. 初級の指導 | 14. まとめ |
| 7. 音声の指導① | |

課題は、教師が提示した授業内容に関連したトピックについて書くものを5回、コメントシートを5回、期末レポートを1回提出させた。課題は、例えば、「身近な日本語学習者に、日本語の発音で難しいことや発音をよくするために工夫していることを聞く」、「日本と学習者の文化における言語行動の違いについて調べる」、「自分が受けてきた外国語教育について振り返る」といったトピックを提示した。

2.2 日本語教育基礎演習

本科目は、「日本語教育基礎」を履修した学生を対象としており、2013年度の秋学期より開講された。「日本語教育基礎」で学んだ日本語教育に関する基礎的な知識を前提とし、日本語を実際に教えるために必要とされる教材分析、教案作成、模擬授業を通して、日本語を教えることを実際に体験できるような授業を行った。授業は、一般的に初級レベルで行われる文法の導入や文型練習、応用練習といった一連の教室活動を教師が紹介した後、学生が模擬授業を行い、受講者間でコメントしあうという演習形式で進めた。14回の授業内容は、以下の通りである。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. オリエンテーション | 8. 教案作成① |
| 2. 教材分析 | 9. 模擬授業① |
| 3. 指導項目の分析① | 10. 指導項目の分析② |
| 4. 初級文法の導入 | 11. 教案作成② |
| 5. 文型練習 | 12. 模擬授業②・1 |
| 6. 例文・練習問題の検討 | 13. 模擬授業②・2 |
| 7. 応用練習 | 14. まとめ |

今学期は、受講生が少なかったため、1回目の模擬授業では、教科書の1課分を分担して担当し、2回目の模擬授業では、1課分を一人で担当し、一連の教室活動をすべて行った。受講生は非常に積極的に参加し、最後の模擬授業では各自、オリジナルの教材を作成し、中には自身が録画したビデオを教材として用いる学生もいた。

3. 成果と今後の課題

「日本語教育基礎」に関して、学生からのコメントシートには、「日本語の今まで意識しなかったようなことに気づかされた」、「言語を教えることの大変さを知った」、「これまで自分が受けてきた外国語教育を客観的に見ることができた」、「海外で日本語を教えてみたいと思うようになった」などのコメントがほぼ毎回見られた。また、「日本語教育基礎演習」でも、受講生に留学生がいたため、「日本語を教える際に非母語話者がどのようなことを難しいと感じるのかということに気づかされてよかった」というコメントがあった。今後、この二つの科目が、日本人学生と留学生の交流の機会になればと思う。

2014年度よりこれら二科目は、開講クラス数が増える予定である。「日本語教育基礎演習」まで継続して受講する学生を増やすためにも、「日本語教育基礎」において、日本語を教えるということがより具体的にイメージできるような授業を設計したい。